

感染制御専門薬剤師の仕事とは

専門薬剤師や認定薬剤師が各領域で続々と誕生している。その1つが感染症領域だ。日本病院薬剤師会が認定した「感染制御専門薬剤師」は2010年4月現在で207人、「感染制御認定薬剤師」は09年10月現在で253人に達する。感染症領域のチーム医療を支える重要な人材として、その存在が医療現場に根づきつつあるようだ。具体的な役割や業務内容を、07年度に感染制御専門薬剤師の認定を取得した濱口良彦氏（関西電力病院薬剤部長）に聞いた。

関西電力病院薬剤部長 濱口良彦氏に聞く

感染症領域における薬剤師の重要な役割の1つは、院内感染の防止だ。多くの入院患者は免疫力が低下している。健康な人ではさほど問題にならないメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）などの薬剤耐性菌や、様々な病原性細菌に感染しやすい。これらの病原菌がドアノブや医療従事者などを介して、院内に広まらないように対策を講じる必要がある。

多くの病院で薬剤師は、感染制御チーム（ICT）の一員として、米国疾病管理予防センター（CDC）のガイドラインなどを参考に、標準的な感染防止対策の構築に関わっている。ICTの回診にも加わり不備な点を指導している。

また、感染防止対策では、消毒薬の適正使用も欠かせない。どの場面にどの消毒薬を使うのか、その選択は一般的に薬剤師が担う。

「高温、長時間、高濃度で使えば消毒薬の効果は高い。こうした基本的な観点に加え、人体への影響が小さく、低コストで、使用方法が簡便な消毒薬を選ぶことがポイント」と濱口氏。「使用方法や消毒方法が分からない時や、問題発生時には、薬剤師に相談が来る仕組みを院内で作るといい」と話す。

もう1つ、薬剤師の重要な役割は、感染症治療への関わりだ。感染症治療を成功させるには、①どの細菌がどの臓器で感染症を引き起こしているのかを把握し、臓器移行性や抗菌スペクトラムなどを考慮して、適切な抗菌薬を選ぶ②選んだ抗菌薬が十分な効果を発揮

するように、患者の病態や代謝・排泄能、抗菌薬の特性などに応じて投与量や投与間隔を設定する——という2点が重要になる。

感染症専門医が不足している現状もあり、それだけに抗菌薬に詳しい薬剤師が、院内の抗菌薬使用ルール作成の主導をは

じめ、医師からの相談に応じたり、医師に提案したりして、抗菌薬の適正使用に深く関わっていく必要がある。

濱口氏はこれまでに、添付文書にない高用量の抗菌薬使用を医師に提言することが何度もあった。「抗菌薬は、添付文書に書いてある通りの使い方ではうまくいかない時がある。適応外の用量を使う必要に迫られれば、それを医師に提言する。薬剤師はその結果に責任を持つという姿勢が重要」と話す。

また、注射の抗菌薬の点滴速度は“盲点”になるため注意が必要という。「投与には時間をかけ、アナフィラキシーショックの誘発を避ける。抗菌薬の種類にもよるが、基本的には30分かけて投与することを、院内で徹底

病院全体の感染を管理 地域の底上げにも貢献

感染制御専門・認定薬剤師は、院内の体制整備やルールの設定について主導するのをはじめ、病棟担当薬剤師や各医療スタッフを教育して、「みんなをうまく使いながら、病院全体として感染症を管理していく役割を担



させている。

特に重症感染症などの場合は、抗菌薬の1回投与量が2倍になる場合があり、抗菌薬の効果を引き出すためには投与時間を長く、約2倍に設定することが重要になる」と濱口氏は言う。

効果がないのに同じ抗菌薬をだらだら使うことも避ける。感染症が治らないばかりか、薬剤耐性菌を生み出す原因になるからだ。

「以前勤務していた病院では、投与開始から4日以内に評価し、効いていなければ別の抗菌薬に変更する体制を作った。その結果、長期間投与するのは再燃が懸念される症例だけで、約95%の症例において投与期間は7日以内に収まっていた」

このほか、病態はもちろんのこと、発熱、CRPの推移などを見て、抗菌薬の投与を終えるタイミングを評価することも大切だという。

う」と濱口氏は語る。

また、院内だけでなく地域全体の専門・認定薬剤師を増やし、各医療機関で感染対策が十分に行われるようにするのも重要な役割だ。その意味を込めて、濱口氏ら大阪市内の14病院の薬剤師は、08年に「大阪感染制御薬剤師研究会」を立ち上げた。年に1回の頻度で講習会を開催。毎回100人以上の参加者があるという。



私たちと一緒に、
未来を描いてみませんか！



首都圏での店舗展開
東京都：17店舗 神奈川県：5店舗
埼玉県・千葉県・山梨県・栃木県：各1店舗



人と人とのコミュニケーションを育みたい。
そしてそれが大きな幹（ミキ）から伸びる枝葉のように、
未来に向かって広がってほしい。それが私たちの希いです。

株式会社 メディカルファーマシー
人材開発部 saiyou@miki.ne.jp

本社：〒162-0056 東京都新宿区若松町9-12 KSビル 2F TEL 03-5368-2011
設立/昭和54年2月 資本金/5,000万円 売上高/114億円 従業員数/250名（薬剤師167名）